

よし 伸栄製作所の全株取得、グループ化 かね 板金・溶接・製罐事業を強化

横浜に新拠点、商圈も拡大

各種鋼材・ステンレス・非鉄金属類の加工販売を手掛ける、かねよし（本社・埼玉県川口市中青木、社長・吉田竜一氏）は、板金・製罐業の伸栄製作所（横浜市港北区新吉田町）の全株式を譲り受け、グループ化した。

鋼板類を中心にレー

ザ切断や穴あけ、折り曲げ、タップ加工を手掛けるかねよしは、もともと地場の取引先で板金・溶接業だった加賀工業所の廃業を機にその事業を承継。2022年12月に現在の「青木工場」（川口市青木）を開設し、川下分野に本格進出した。その後、板金・溶接

の受注が漸増し、今では設備・人的能力を上回るほど。潜在需要を見込むとともに商域拡大も視野に、M&Aも含めた事業展開を模索する中で専門の仲介企業を通じ、後継者不在で将来のBCPを案じていた伸栄製作所と双方の思惑が合致した。

かねよしグループとなった伸栄製作所は、横山茂氏（55）が「取締役社長」として引き続き日常の経営実務に携わり、かねよしの吉田社長は「代表取締役」として同社の重要な意思決定の判断に関わる。

青木工場に加え、伸栄製作所をパートナーに加えたことで、かねよしグループでは素材の一次・二次加工から板金・溶接・製罐までの事業領域を拡充。神奈川県内に新たな事業拠点も設けたことでグループ一体運営による新規需要（顧客）開拓と新市場の掘り起こしに力を注ぎ、受注間口をさらに広げていく。

同社は「100億宣



伸栄製作所の本社工場（横浜市港北区）

がほぼ半分を占める。港北区と都筑区に計3カ所の工場を有し、配電盤や分電盤といった電機分野向けを主体に小ロットで細かい注文をこなす。客先も多く、リスク分散しながら堅実経営に徹してきたことでも知られる。